

最近中国で発見された新鉱床

地質相談所 岸本文男

1983年に中国が「開放・活化・好管」政策を鉱業の分野にも全面的に適用して以来 鉱床発見の報道が堂々と地名入りで新聞に掲載されるようになった。どこの国とも 互いをさらけ出して裸の付き合いをすることこそ友好の道と考えている筆者にとっては 非常に嬉しいことである。秘密が国是の国は どこの国民からも信用されるはずがないのだから。さて これから時を見ては その発見のニュースをお伝えする所存。どうぞよろしく。

I 中国最大のボーキサイト鉱床の探査試験が成功

貴州省地質産部 115 地質大隊の 2 期・10 年にわたる奮励努力によって 27 年前すでに黔中地質大隊が鉱徴を発見していた貴州省の一大潜頭ボーキサイト鉱床群の賦存範囲が明らかになった。清鎮県には 80km² 範囲に今回探査・確認された 全体の鉱量の大部分を占める 3 大型鉱体および 2 中型鉱体が存在し ボーキサイト鉱床の賦存有望区 3 区の範囲も確定された。地質産部関係部門のチェック調査と立地条件の検討を経て この鉱床全体の規模は今までの記録を破る中国最大のもので 鉱山の建設条件は理想に近く 新たなアルミニウム工業原料基地にすべきものと決定された。

(中国地質報 1987. 1. 16)

II 昆明市郊外で超大型チタン砂鉄鉱床

このたび 雲南省昆明市郊外の富民 禄勳および隣接する武定県内にわたって品位の比較的高い 採掘しやすく 選鉱しやすい超大型チタン砂鉄鉱床が埋蔵されることが実証された。雲南省の関係部門と昆明市はすでに それを速やかに開発・利用する計画を立案し終えている。

ごく最近 地質技師たちは その一地域で 20 幾つの比較的大きな含チタン塩基性岩体の形態を調査し それらが占める総面積を 120km² と算定したのであるが その中の 4 含チタン塩基性岩体に対する地表剝土作業の過程で厚さ 5 m から 30m 数百万 t の鉱量 (チタン鉄鉱量) のチタン砂鉄層の存在を確認したのである。そしてさらに 地質資料を推定して 全体の鉱量は一千万 t に達するという結論を出した。この総鉱量は中国の規準では超大型チタン鉱床の規模になる。鉱床区域は昆明市から もっとも近い所で 30km 遠い所で 100km を越えるが 交通が非常に便利であり 鉱床も風化殻型で品位が比較的高く 露天掘りが容易である。チタン鉄鉱

は 金属チタンを製錬する主な原料鉱物である。銀白色のその金属チタンは すでに近代工業と近代的生活のいろいろな分野に「あまねく」浸透している。チタン鉄鉱から作ったチタン白は 塗料 印刷用インク 紙 化学繊維 ゴム 合成樹脂などの理想的な添加材であり 「白色顔料の王様」という栄誉を受けている。とくに宇宙ロケット・航空機工業で大量に用いられているため 「空中の金属」とか 「二十一世紀の金属」とも呼ばれている。王正端

(中国地質報 1986. 9. 22)

III 福建省で中国第二の大型タンタル鉱床

新年早々 中国は新疆ウイグル族自治区の阿爾泰山地で大型ニオブ・タンタル鉱床を発見したが 今回また福建省の閩北山地で現在のところ中国第二の大型タンタル鉱床が探査・確認された。

新たに把握されたこのタンタル鉱床は タンタル平均品位が 0.027% に達し 最低可採平均品位をはるかに越えている。すでに確認済みの鉱物は 60 余種あって その中の脈石鉱物は主として納山石 (注: 邦訳名は不明) 石英 微斜長石 リシア輝石 雲母などからなり 稀有金属鉱物にはニオブ・タンタル鉱物 リチウム・ベリリウム・セシウム・ジルコニウム・ハフニウムなどの鉱物 17 種があり 錫鉱物と少量のウラン鉱物も認められる。探査・把握された鉱量は 6,014 万 9,400 t (粗鉱量) である。

ニオブとタンタルは常に共存し いずれも高温・腐食に対する耐久性が大きいという特徴を備え したがって エレクトロニクスや宇宙空間技術にとって不可欠な 産出量の少ない 重要な金属材料である。世界のニオブ鉱物の全鉱量は金属量にしておよそ 1,000 万 t であるがタンタルの場合はその 1/10 にすぎない。両者とも価格の高いレアメタルである。上記の山地で新たに把握されたこのタンタルに富む鉱床は 理想的な高品位・浅在鉱床で 都市に近く 採掘しやすいレアメタル鉱山になる。

この鉱床は花崗岩ペグマタイト型で 先震旦系建陽層群の麻原累層を切って露出している。

閩北地質大隊と福建省第三試験隊は共同して 地質産部が重点探査対象とした課題を完了し 1979 年初頭から探査を開始し 1986 年 12 月に地質調査・鉱床探査報告を提出した。国家鉱産資源鉱量委員会は専門家を組織して その報告を審査・討議し この鉱床が経済効果の高い 探査投資の少なくすむものであるという結論を出した。

周利坤 (中国地質報 1987. 1. 2)